

(別添様式2)

平成25年度「学校・地域パートナーシップ事業」取組の概要

市町村名	学校名等
宇陀市	宇陀市立榛原東小学校

1 基本コンセプト（取組のねらいや考え方など）

- 本校では、地域と保護者と教職員が協力して、子どもの安全を図る取組を行うことをねらいとしている。

平成17年に旧東榛原小学校と旧内牧小学校が統合となってできた学校であり、校区は広範囲である。現在、児童数は300人を越えるが、その75%が旧東榛原小学校区にある天満台とひのき坂の団地から通っている。また、旧内牧小学校区の児童は、2台のスクールバスを利用して通学している。

児童が利用する通学路上には、団地内においては見通しのききにくい交差点や車の通行量の多い箇所が多くあり、また、スクールバスを利用する地域は山間部であり、停留所まで人気の少ない場所を長い距離歩くことになるなど、交通安全や防犯面で課題がある。

学校では、子どもの安全を図る取組を進めるために、「地域・学校安全部会」を設置した。この部会は、これまで児童の通学を見守ってきた校区内3つのボランティア団体と本校PTA組織内の地区PTA部会及び校内の地域安全部で構成される。

2 取組の概要

6月に「地域・学校安全部会」の初会合を開き、部会設置のねらいや子どもの安全を守る取組について、情報交換を行った。

安全を守る取組としては、登下校時の見守り活動がある。春と秋の交通安全週間中教職員はボランティア団体の人たちの見守り活動に加え、交差点やスクールバス停留所で通学する子どもを出迎えた。また、入学式が終わってしばらくの間は、新1年生の安全と徒歩通学の支援を目的として、下校時に分団の集合場所まで教職員が同行してきた。

PTAでも地区PTA部会が中心となって通学路の安全点検を呼びかけ、危険箇所の確認や標識の設置等要望を文書にまとめ行政機関に提出してきた他、道路飛び出し防止を知らせる「ストップマーク」の設置を行った。